

愛隣館研修センターニュース

〒612-8141 京都市伏見区向島二ノ丸町 151 Tel:075-621-3849 Fax:075-621-1579
 E-mail:airinday@sunny.ecn.ne.jp http://www.airinkan.net 振替:01020-5-39321
 編集発行所:社会福祉法人イエス団 愛隣館研修センター 発行責任者:平田 義

91号

二ノ丸学区社会福祉協議会が誕生!

2014年6月29日(日)13:00~二ノ丸小学校の体育館で、「二ノ丸学区社会福祉協議会 設立総会・記念講演会」が開催されました。伏見区内で第32番目、15年ぶりの学区社協の誕生となります。

参加者は約180名、途中夕立が降りましたが、熱心に話を聞かれています。

第2部の講演会では、登壇者として、認知症の家族の介護経験者のF氏、障がい当事者で向島在住の矢吹文敏氏、向島駅前まちづくり協議会から京都文教大学講師小林大祐氏の3名の方がお話しをされ、同志社大学社会学部教授、空閑浩人氏より助言を頂きました。

Fさんは、認知症が進んだ母の言動や介護に疲れストレスを感じていたときに、相談や愚痴を話し、「家族の会」やケアマネージャーに聞いてもらえたことで、「すっとして、次からががんばれる」と思えたご自身の経験から、地域に認知症の家族介護者が集まって話ができる場があればいいと思うと話されました。

矢吹氏は、2015年4月1日より施行される「京都府障害のある人もない人も共に安心していきいきと暮らしやすい社会づくり条例」の検討委員でもあり、ご自身も障がい者、70歳以上の高齢者として、また日本自立生活センターの所長をしている支援者の立場として、お話しをされました。

「支援される側」として生きるのはしんどいことである。支援を必要とする高齢者・障害者があるから、ヘルパーや介護サービスの雇用が生み出されている。支援を必要とする人がいることによって、世の中が動いているということも知ってほしい。閉じこもった人、認知症の人、精神障害の人・・・を含め、「共

に生きる」ということの共通のイメージ作りをすることが必要である。

自分も含め、人間は皆おだてられるとうれしいものである。独居老人の方、障がい者の方、ひきこもりの方・・・が一定の役割が担え「あなたに支えられてるのよ」と言われ、「自分がまちづくりに役立っている」と思えたらうれしいのではないか、と話されました。

小林氏は、2013年1月から向島ニュータウンの住民向けに行ったアンケートの結果から、地域における課題と、今後の可能性について話されました。アンケートの回収率から、住民の地域に対する関心の高さが伺えた。二ノ丸学区の高齢化率は、2010年に実施された国勢調査の高齢化率よりも高いが、見守りや話し相手、災害時の手伝いなどに関わりたいという住民が多かった。これまでのまちづくりは「3チャンまちづくり」と言われ、じいちゃん・ばあちゃん・かあちゃんが中心だったが、働き盛り・定年後の会社人間の男性が地域人間としてもっと活躍できるしかけを作り、環境問題で道や公園のパトロールをして、「あぶないMAP」を作ったり、市営住宅の風呂の問題などに取り組んだりできたらいいのではないかと提案されました。

空閑氏は、「サイレント・プア(声なき貧困)」というドラマが放映していたが、貧困はお金のことだけではなく、孤立、つながり、お話しをする場、時間の貧困など多様である。いろいろな事情の人、世代の人がいる、ということをもまず知ることから、「共にある」ことを知る。

一見めんどくさいと感じられる「会話」や「地域の行事」「地域の役」を自分からすることが、実は重要なのである、と話されました。

地域の方から、
「サークルやカラオケなど、街区ごとに様々な活動を行っている。地域で知り合いを求めている人には是非参加して欲しい」
「せめてエレベーターで人と乗り合わせたときは、挨拶をしあえたらいい」
「住民の足であるバスに、もっとノンステップバスが増えて欲しい」
など様々な意見が上がりました。

今後も、学区社協の活動の一環として、地域住民の方々と共に、地域の様々な課題の解決のために学習会などを定期的開催していくことを確認して会が閉じられました。

当日配布されました二ノ丸学区社会福祉協議会設立宣言を以下に記します。ご一読くださり思いを共有していただければと願っております。
(福野由記)

設立宣言

「住み慣れた場所で安心して暮らし続けたい」という思いは、だれもが共通して持っている願いです。

私たちが暮らしている向島ニュータウンは、誕生から40年近く経過して高齢化が顕著になってきました。また、障がいのある方や子育て世帯などの中には、ひとり暮らしや家族の支えが十分に得られない事情があるために、介護サービスや社会福祉制度による支援が必要な方も多く生活しています。

そのような中、二ノ丸学区では、行政などの相談窓口につながる事ができず、必要な支援を受けることができないまま生活に困られている方や、悪徳商法などの被害にあう方もおられます。そのような福祉課題の背景には、身近に相談できる相手がなく地域社会から孤立している現状があります。

たとえ制度やサービスが充実していても、適切に利用できなければ福祉課題を解決することはできません。また、地域の中での社会的孤立は、地域の住民同士が互いに手を取り合わなければ解消することはできません。

そこで、私たちの二ノ丸学区においても、住民のみなさんのご理解とご協力のもとで学区社会福祉協議会を設立し、地域における見守りや居場所づくり、相談活動などに取り組み、だれもが「暮らしよかった」「暮らし続けたい」と思える福祉のまちづくりをすすめて参ります。

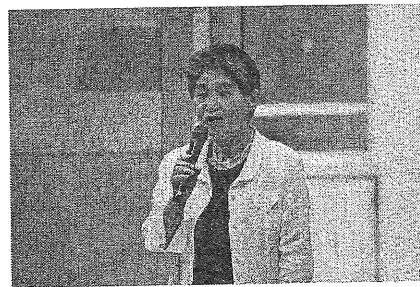
2014年6月29日

二ノ丸学区社会福祉協議会設立準備会

二ノ丸学区社会福祉協議会会長

高木春美さんのお話し

自らの生活のことで手一杯になり、心が貧しい状況に追いやられている人たちも少なくないと感じています。そのような中でも、地域の人たちに、子どもたち、高齢者、障がいのある方などの見守り活動や声掛け活動に携わってくださる方が増えていってくださることを願っています。閉じこもり気味の方々に出てきてもらうことは難しいことですが、そのような機会を増やしていきながら、一人でも多くの方とお話ししていけるようになりたいです。皆様のご協力をよろしくお願いいたします。



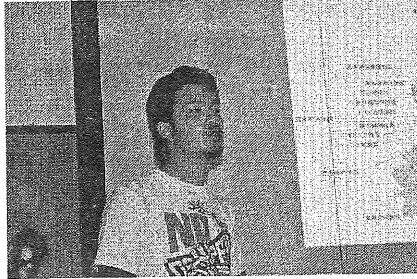
高木春美さん

沖縄の大学生「平和」を問う

多くの沖縄県民の反対の声を無視し、日本政府は、自然豊かな名護市辺野古に新たな基地建設を強行しようとしている。そのような危機的な状況に置かれている沖縄の現状を「本土」の人々に伝え、共に「平和」について考え、これからの日本の、沖縄の将来を考える機会になればと、大学を1年休学して全国行脚を行っている沖縄キリスト教学院大学の知念優幸さん。彼が去る5月27日に愛隣館で講演を行った。

講演では、「沖縄の犠牲の上にあなた方の平和な生活がある」「あなたにとって平和とは何ですか」と問われた。沖縄戦、米軍支配、復帰、今も続く基地被害を語る。「日本人が基地を押し付け、容認することで犠牲は増え続けている。それを知った上で同じ生活をするなら、沖縄の人の命と尊厳を踏みにじっていると考えてください」とも。鋭く力強い問いかけに、多くの人が心を打たれ、あらためて「本土」にいる側の人間として、「私たちにとっての平和」とは何かを、深く考えさせられた。

知念さんは、京都を離れた後も、全国各地を回り、講演を続けておられ、7月14日現在、70箇所での講演を終えられた。今は東の間の休息で一旦沖縄に帰られたのだが、「ブイ設置やボーリング調査が間近に迫っている沖縄で声をあげないといけない」との思いから、新基地建設に向けての動きが加速している辺野古に向向かれたようだ。



知念優幸さん(愛隣館にて)

以下に、緊迫する辺野古の現状を伝える沖縄の新聞記事を掲載する。どのような手段を用いても新基地建設を強行しようとする政府の思惑がよく分かる。「沖縄の負担軽減」と発言する舌の根も乾かぬうちに、絶大なる国家権力を駆使して、市民に弾圧を加えていくことを推し進めようとしているのだ。

絶対に許されない！ (平田義)

<沖縄タイムス7月18日>

米軍普天間飛行場返還に伴う名護市辺野古での新基地建設をめぐり、工事区域を示すために沖縄防衛局が準備を進めている浮標(ブイ)設置計画の概要が17日までに分かった。立ち入り禁止区域の境界にブイを並べるとともに、海底ボーリング調査の足場周辺にフロート(浮具)を張り巡らす。設置着手の時点から、ブイの周囲は海上保安庁のゴムボートや民間警備船、警戒船が監視に当たり、反対派の抗議行動を念頭に重層的な態勢を敷く。ブイ設置と同時に、沿岸近くの2カ所にボーリング用の単管足場を組むとしている。

立ち入り禁止区域内の沿岸部に仮設の棧橋や岸壁を複数設置するほか、海上保安庁が使う浮棧橋も新たに設ける。全てのブイ設置が完了するまでに数日間要する見込み。防衛局は来週以降、ブイ設置に着手し、月内にボーリング調査を始める方針だ。

一方、県警・海上保安庁と警備業者が連携を図るため、シュワブ内に「現地調整所」を設置。シュワブの各ゲートや沿岸部、辺野古・汀間漁港はそれぞれ警備員を置き、24時間体制で警戒する。海上の工事区域は船舶が終日警備する。

沖縄タイムス社が情報公開で入手した特記仕様書によると、ボーリング調査では、辺野古沖の水深の

深い12地点にスパット台船、残り9地点に単管足場を設置。潜水などで磁気探査を行った後、海底21地点を掘削する計画だ。

<琉球新報7月19日>

安倍晋三首相が7月上旬、米軍普天間飛行場の名護市辺野古への移設に伴う海底ボーリング調査と、移設工事の施工区域などを明示するための浮標灯(ブイ)の設置をめぐり、「急いでやれ」と防衛省幹部らに早期実施を強く指示していたことが分かった。

一方、海底調査に先立つブイ設置について防衛省は22日にも作業に着手することを検討しているが、台風の接近なども踏まえ、27日からの週とする方向であらためて調整するとみられる。

関係者によると、安倍首相は今月上旬、官邸の執務室に防衛省幹部を呼び、移設作業の進捗(しんちやく)について報告を受けた際、「なぜ作業が遅れている。さっさとやれ」などとブイ設置や海底調査開始の遅れについて声を荒らげて叱責(しっせき)。机をたたくなどしてまく立てたという。

首相は移設問題についてこれまで「地元で丁寧(ていねい)に説明し、理解を求めながら進める」と繰り返しているが、地元名護市が移設に反対する中で作業の強行に自身も深く関与していたことが明らかになった形だ。

<琉球新報7月19日>

米軍普天間飛行場の名護市辺野古移設に伴う海底ボーリング調査に向け、県警が海上での身柄拘束を視野に警備体制を組んでいることが18日、複数の関係者への取材で分かった。浮標灯(ブイ)の設置作業に合わせ、警備艇を出して警戒に当たる方針。

県警と海上保安庁が連携し、反対派市民が提供水域に侵入するなどの行為があった場合に刑事特別法(刑特法)などの法律を適用する。県警関係者は「今回は政府の意向が強く働いている。10年前の失敗を踏まえフル装備で警備に当たる」と話している。

県警は2004年のボーリング調査時にも、数隻の警備艇を出動させ警戒に当たった。県警が所持する警備艇は先島に配置されている船を含めて9隻。今回も各署から辺野古沖に集結させる予定で、10年前よりも増やす見込みだ。加えて、海保が出すゴムボートに警察官が同乗することも検討している。海保は刑特法を適用した例はないため、県警と協力して逮捕を行って漁船をチャーターし、「警戒船」として辺野古周辺海域を航行させている。

ありがとう、秀樹さん。

2012年9月、秀樹さんと初めてお会いしたのはまだ残暑厳しい頃でしたね。退院して向島に戻ってこられたのが翌年1月下旬。その間に秀樹さんの周りに「支援者」が集まってきました。様々なサービスをご利用していただく中で「支援者のつながり」の中心に、いつも秀樹さんがおられました。わたしたちは秀樹さんのポジティブな姿勢と、周囲を気遣う優しさに接する中で、いつのまにか「支援すること・されること」について学んでいた気がします。

「パチンコで一儲けしよう！」って約束は果たせずじまい…きっと今頃ドル箱積み上げてはりますよね！！(篠原文浩)

2014年 4.5.6.7月の活動

- 4/7-12 お花見
- 5/27 知念優幸さんお話
- 5/31 ホタル観賞会
- 6/01 にっこりフェスティバル
- 6/13 同志社女子高校花の日訪問
素敵なお花と出会いをありがとう！
- 6/22-26 京都ブロック沖縄研修
- 6/29 ニノ丸社会福祉協議会設立総会
- 7/05 第3回ラーの会 in 京都
- 7/06 ほっこりフェスタ
- 7/13.17.27 喀痰吸引第3号研修
SIEA (アジア国際夏期学校)
濟州島セミナー (11/14-17) &
タイセミナー (2015年2月末~3月初旬)
参加者募集中! TEL: 075-621-3849
mail: siea@abelia.ocn.ne.jp

詩人 柏木正行さん (1945-2006) の
魂に触れる

言いたい事
言いたい事
どうしても言えないんだ
おれの言葉を
もう一人のおれが押さえ込んでるんだ
何とかしてくれ
もう一人のおれを殺してくれ

2014年 夏期献金のお願い
—これからの“地域”を見据えて—

この向島の地に誕生してから、35年。皆様方のご理解とご支援によって支えられ、活動を続けることが出来ましたこと、心より感謝します。今年度も夏期献金にご協力頂きますよう、改めてお願いを申し上げます。

目的: 障がい児・者とその家族とが地域で安心して暮らしていくことができる為に、
愛隣館研修センターの今後の活動を支援する

目標金額: 3,000,000円

送金方法: 郵便振替 01020-5-39321

口座名: 社会福祉法人イエス団 愛隣館研修センター

★お知らせ★

▽愛隣館研修センターは、八月四日(九日)まで夏期休館日とさせていただきます。

★編集後記★

▼1号完成▽ご意見感想お待ちしております(さ)

イスラエル軍がパレスチナ自治区ガザ全域で集中爆撃を続けていたイスラエル側の死者は二十人。ほぼ全員が軍の兵士だ。一方、パレスチナ側の死者は五百人を超え、その大半は一般市民であり子どもたち。犠牲が半数を超え、これは、圧倒的な軍事力の差の下で繰り広げられる虐殺である。マレシア航空機の墜落に因り、国際世論は、早く非難の声をあげている。イスラエルに非難の動きが鈍る毎日。命が奪われても、許されぬ(ひ)